孫子の兵法と養生
および病気の予防

新世界出版社

孫子の兵法と養生
および病気の予防

翻訳　呉逢輝

校閲　林国本

（国家クラス翻訳専門家の称号を授与さる）

出版者　新世界出版社

北京・一九九七年

版権所有・新世界出版社

翻訳文編集主幹　呉顕林
編集担当　陳士樾（編審の資格を有する）
表紙デザイン　李士極
レイアウト　　鄭恩福

ＩＳＢＮ　７－８０００５－３７８－４

出版者　新世界出版社
（〒１００００３７　中国　北京市百万荘路２４号）
発行者　中国国際図書貿易総公司
（〒１００００４４ 北京 P. O. Box ３９９
中国　北京市車公荘西路３５号）
印刷所　北　京　外　文　印　刷　廠

内容紹介

最初に兵法を医学の分野に応用したのはやはり中国歴代の名医たちであるといえる。

ながが年『孫子の兵法』の研究にたずさわり、軍事(兵法)理論の専門家とみなされている呉如嵩氏、王洪図教授および医師の黄英女史は歴代名医の学説を受け継ぐと同時に歴代医家の医学理論を発展させ、共同で『孫子の兵法と養生および病気の予防』という本を著わした。

本書に収録された四十四篇の文章は、すべて兵法と医学とのつながりを論じたものである。さらに、この本を読めば大いに得るところがあり、みずからの品性を陶冶し、「養生と長寿」の目的を達すれば、これに越したことはないと思う。

内容紹介

昔の人は「男女授受するに親らせざる（男女の間では直接に物のやりとりをしない、という意味）」（孟子・離婁章句上より）という封建思想の束縛を受けていたため男性の医者は直接女性の病気の治療にあたってはならないことになっていた。男性の医者は王公貴族の家族（女性）病気を治療する場合、まず細長い糸で婦人の寸口をしめ、しかるのちに、糸の一端を部屋の外へ引き、医者はこの糸をたぐりながら間接的に脈の盛衰を調べたのである。図は、ある女性の病気の治療にあたっている唐代の名医孫思邈。

絵・李士極

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

著　者

呉 如 嵩

『孫子の兵法』の専門家、博士コース指導教官

王 洪 図

中国伝統医学の専門家、博士コース指導教官

黄　英

軍医医師

編集者のまえがき

呉　顕　林

二五〇〇年以上も昔の中国の春秋の時代に著わされた『孫子の兵法』という著書は内容が豊かで、奥深い本であり、「兵法学の聖典」とたたえられている。今日においては、『孫子の兵法』の中の奥深い哲理、深奥な発想ははやくから広く企業管理、ビジネスの分野における競争、スポーツ競技などさまざまな分野に応用されてきた。しかし、最初に兵法を医学の領域に応用したのはやはり中国歴代の名医たちであるといえる。中国の歴代の医家、例えば、戦国時代の扁鵲、唐代の孫思邈、明代の張景岳、清代の徐大椿らがそれである。これらの医家たちは兵法をもちいて、医学について論じ、「病気を予防することは戦争を防ぐことと同じである」、「病気を治すことは敵を退治することと同じである」、「薬を用いることは兵を用いることと同じである」、「漢方薬を煎じることは刑具を使うものであったことと同じである」などを提起した。その論点は斬新で、ユニークなもので、的確に道理を説いていたものであった。これらの見解はかつて人々にしあわせをもたらしたものである。

なが年『孫子の兵法』の研究にたずさわり、軍事（兵法）理論の専門家とみなされている呉如嵩氏、中国の伝統医学の専門家、博士コース指導教官である王洪図教授および医師の黄英女史は中国の歴代の名医の学説を受け継ぐと同時にそれぞれの専門知識と長所、強みを発揮して、歴代の医家の医学理論を発展させ、他に類を見ない独自の項目を設け、兵法と医学は源を同じうすると論じる事により、共同で『孫子の兵法と養生および病気の予防』という本を著した。これは中国の二千年以上の歴史の中でもっぱら兵法をもとにして医学について論じた唯一の専門著作である。

本書に収録された四十四篇の文章は、すべて兵法と医学との弁証法的なつながりを論じたものである。本書の特色の一つは、文章は簡潔であるが説得力があり、内容が充実し、各論は独自の体系をなすと同時に、またお互いに結びついているといえよう。文章の内容の羅列を避け、兵法をもとにして、医学について論じるというコンセプトが四十四篇の文章の始めから終わりまでつらぬかれているのである。本書のもう一つの特色は、収録されているいくつかの典型的な症例は清新かつ意味深長な哲学を感じさせるものであり、よく吟味するだけの価値がある点にある。つまり、これは科学、知識、趣味、実用性を一冊の本にまとめあげたものであり。収蔵する価値がある。折をみて目を通すのもよいと思う。さらに、この本を読めば大いに得るところがあり、みずからの品性を陶冶し、「養生と長寿」の目的を達すれば、これに越したことはないと思う。とくに中国の伝統医学の医家や西洋医学の医師にとっても、この本はなおさら一読する価値がある。そして、歴代の兵法家と医家の思想を結びつけ、軍事（兵法）理論を医学の分野に応用すると、かならず未曾有の医学の奇跡を作り出すことができるのである。これは編集者の期待するところであり、また人類の期待でもあるといえる。

孫子の兵法と養生および病気の予防　目次

本書の手引き
陰陽、五行、邪と正、虚と実を
やさしく、分かりやすく説明――1
序　文――15
第一章
天地の間、人より貴きは莫し――22
第二章
祥を禁じ疑を去る
医を信じ巫を信じることなし――27
第三章
未だ乱れざるに先んじて防ぐ
未だ病まざるを治す――33

第四章
兵法家は悪いことがまだ
軽微なうちに手を打つことを
重んじる医家は悪いことが
漸次拡大することを防ぐ
ことを重んじる――41
第五章
兵法家は武徳をたっとび
身を修めるには天性の涵養を
重んじる――47
第六章
善く戦うものは、これを
地勢に求め、善く生を養う
ものは、これを地の利に求める――51
第七章
兵は多きを益とすべきに非ざるなり
食は過ぎるを益とすべきに非ざるなり――56

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第八章
兵を養うことは、常に訓練する
ことより貴きは莫し養生という
ことは、常に運動する
ことより善きは莫し――――61
第九章
「一張一馳」は文武の道であり適度の
労働と休息は養生の宝である――――71
第十章
怒りを以て軍を興すなら、かならず戦いに
敗る慍を以て世に処すれば、則ち体をこわす――――97
第十一章
心を静めさせることは勝を収める
ためにもなるし、気持ちが
のびのびすることは長生き
するためになる――――104

第十二章
兵を養うために、勤務と休憩の
順序をきちんとしなければなら
ない養生のためには、日常生活は
規則正しいものであるべきである――110
第十三章
勝利だけを一途に追求すれば必ず戦を
前にして辱められ、安逸を貪り過ぎれば
則ち病いにかかる――125
第十四章
性欲を絶やしてはならず
性欲に溺れてはならない――155
第十五章
軍隊を治めるために、士気を
高めるべきであり、養生の
ために、常に気功の練習を
しなければならない――162

第十六章
戦いを前にして将を
選ばなければならない
病気を患ったときは医者を
選ぶべきである――165
第十七章
将帥と兵士が団結して一体と
なり、患者と医者が協力して
心を一つにする――169
第十八章
正確に敵情を分析するためには
敵の動静を探ぐらなければならない
病因を判断するためは、四診を
結びつけて病因や
そのメカニズムを
分析しなければならない――173

第十九章
戦争で勝利を収めるためには
本陣ではかりごとを巡らさなければ
ならない病気をなおすには、
弁証論治につとめなければならない――185
第二十章
まずは謀（はかりごと）を伐つしかるのちに
兵を伐ち、まず食餌療法で病気を
治ししかるのちに薬で病気を治す――191
第二十一章
戦争で勝利をおさめることは
戦略戦術が当を得ることであり
病気を治すことは敵を退治する
ことと同じである――196
第二十二章
兵を配置して陣容を整え
処方によって投薬する――201

第二十三章
正を以て合い、奇を以て勝つ。機に
臨み、変に応じて適切に
対処すべきであり、君、臣、佐、使
などの薬の方剤における
作用をはっきり
させるべきである――206

第二十四章
将帥にとっては慎重に兵を
用いるがよく、患者にとっては
あせって薬を飲むことを
戒めるべきである――211

第二十五章
敵を攻めるには、まずその謀
(はかりごと)を伐ち、しかるのちに
兵を伐つことであり、病いを治すには
まず心理面での治療を施し
しかるのちに薬で治療を施す――217

第二十六章
情を抑えて怒りを押さえ
情で情を制する――223
第二十七章
其の之く所にそむき
情を移して気性を改める――227
第二十八章
兵法は詐をいとわず
詐術で心気症を治す――232
第二十九章
気を失えば、則ち師を散らす
神が衰えれば、則ち病気にかかる――241
第三十章
道案内を使って地の利を得る
絡脈に基づいて薬の効能を高める――245

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com